

助成年度：平成 11 年度

[所属] 檜原市立 畝傍中学校
[役職] 教諭
[氏名] 松本 清二 (他計 7 名)

[課題]

飛鳥歴史公園の二次的自然環境の生態系調査と維持保全に関する研究

[内容]

本研究は、5 項目の課題を設定し行った。第 1 項目は、オオムラサキが定着を目指している国営飛鳥歴史公園甘樫地区の沿革、設計基準、管理基準や公園のイベント等人間と自然の関わりを考慮した取組みについて中野が報告した。第 2 項目では、秋山と中谷が先ずオオムラサキの生態について述べ、オオムラサキと生息環境を詳細に報告している。次に、オオムラサキの人工繁殖方法と飼育方法を紹介し、歴史公園甘樫地区での放蝶作業を報告する。オオムラサキの人工繁殖の研究は、多くの研究者により試みられているが成功した報告がなく秋山による本報告が最初となる。また、今回初めて紹介する新しい知見も示されている。第 3 項目では、放蝶に際して甘樫地区の動物生態系の調査結果を報告する。また、エノキ (*Celtis*) とクヌギ・コナラ (*Quercus*) の植生調査について報告し、オオムラサキの定着要因について公園の管理技術に関する内容について提起している。第 4 項目では、甘樫地区を取り巻くように流れる飛鳥川について報告している。飛鳥川を議論せず歴史公園甘樫地区の生態系を考えることはできない。甘樫丘とその麓を流れる飛鳥川の景観は、多くの観光客を誘致する一つであり、歴史的景観に配慮した河川改修が行われている。そこでは、治水・利水・環境に配慮した豊浦・雷地区の近自然型河川の設計コンセプトを提示し、親水性ある河川改修の課題について記述した。次に、飛鳥川の自然護岸・二面コンクリート・三面コンクリートと豊浦・雷地区の近自然型工法による改修工事修了後の淡水生物の生息調査結果と約 10 年前のデータを比較検討して、現在の河川の状態や近自然型工法による護岸や河床の構造について論議する。更に、水質が淡水生物に与える影響を調査した。飛鳥川からその本流である大和川に生息するコイ (*Cyprinus carpio*) を指標動物として捕獲し、生殖腺の形状、肥満度、血液中のビテロジェニンの有無から現在話題となっている環境ホルモンの状況について報告する。第 5 項目では、総合的な学習の中身をより具体的に紹介した。そして、各項目で述べてきた内容を参考として、学校や地域における環境教育のカリキュラム作りに役立てられるようコメントを加えた。